

令和6年度

建設環境委員会行政視察報告書

▶ 視察日程

令和6年11月15日（金）

▶ 視察先

11月15日 福岡県福岡市

- ・福岡都市圏消防共同指令センター
- ・福岡市民防災センター

▶ 視察参加者

【委員】	委員長	村田丈生
	副委員長	中村隆征
	委員	金藤哲夫
	委員	近藤康夫
	委員	斉藤マリ子
	委員	永田憲男

【事務局】 徳田伸隆（随伴）

目 次

- 1 福岡市（福岡都市圏消防共同指令センター）
【Live119 映像通報システムについて】 1

- 2 福岡市（福岡市民防災センター）
【福岡市民防災センター施設見学について】 5

- 3 視察を終えて（各委員の所感） 7

福岡県福岡市

(福岡都市圏消防共同指令センター)

福岡県福岡市中央区舞鶴3-9-7

- 1 視察日時 令和6年11月15日(金)
午後1時30分～午後3時00分
- 2 視察事項 Live119映像通報システムについて

3 視察の概要

(1) 福岡市の概要

福岡市は、福岡県の県庁所在地であり、九州最大の都市である(人口約165万人・面積約343km²※令和7年2月現在)。アジア大陸に最も近い日本の都市として、古くから海外との交流が盛んであり、「アジアの玄関口」としての役割を担っている。若者を中心に人口が増加しているほか、コンパクトシティとして、生活に必要な施設がまとまっており、暮らしやすい点が魅力の一つである。国際的なビジネス拠点としての役割をさらに強化し、多様な文化が共存する魅力的な都市を目指している。

(2) 福岡都市圏消防共同指令センターについて

平成29年11月から福岡都市圏の5消防本部にある119番指令センターを一本化した「福岡都市圏消防共同指令センター」の運用を開始しており、令和5年11月から新たに筑紫野太宰府消防組合消防本部が加入した。(令和11年度、糸島市消防本部加入予定)

119番指令センターを一本化することにより、福岡都市圏内の119番通報を全て福岡市消防本部にある共同指令センターで受け付けることになるため、大規模災害時における都市圏内の早期の情報把握や迅速かつ効率的な部隊運用、119番通報集中時の受信・処理能力の向上、指令センター配置人員の効率化による現場配置人員の増強等が期待される。

(令和6年8月1日時点 共同運用参加消防本部数6本部・構成市町16市町・管轄総面積956.09km²・総人口2,539,946人・総世帯数1,246,791世帯)

(3) Live119映像通報システムの導入について

●導入の背景及び目的

Live119は、119番通報時に、通報者がスマートフォンのビデオ通話機能を使って、現場の映像を消防指令センターに送信できるシステムである。事前にアプリ等をダウンロードする必要がなく、現場とリアルタイム映像でつなぎ、迅速に消防・救急活動を行うことができるシステムである。

福岡都市圏消防共同指令センターが、本システムの導入における背景と目的は以下のとおりである。

【導入の背景】

・音声情報のみの限界

従来119番通報は音声のみの情報伝達であり、現場の状況を正確に把握することが困難な場合がある。特に、複雑な事故や災害の状況、傷病者の状態などを言葉だけで伝えるには限界がある。

・救急現場の状況把握の迅速化

救急現場では、一刻を争う対応が求められる。現場の映像をリアルタイムで確認することで、状況把握の迅速化と適切な指示出しが可能になる。

・救命率の向上

映像を通じて、救急隊員が現場に到着する前に、指令センターから適切な応急手当の指示を出すことができることにより、救命率の向上が期待される。

【導入の目的】

・現場状況の正確な把握

映像を通じて、火災や事故の状況、傷病者の状態などを正確に把握し、適切な対応を可能にする。

・迅速かつ的確な指示

現場の状況をリアルタイムで確認することで、消防隊や救急隊への的確な指示を迅速に行うことができる。

・応急手当の支援

映像を通じて、通報者に応急手当の方法を具体的に指示し、救命活動を支援する。

・消防活動の効率化

現場の状況を事前に把握することで、消防隊や救急隊の活動を効率化し、より迅速な救助活動を可能にする。

・市民への安心・安全な消防サービスの提供:

緊急時における、よりの確な状況判断と対応を可能とすることで、市民生活の安全、安心に寄与することができる。

●事業費

システム導入費：約1,766千円

維持管理費：約1,030千円（令和6年度）

●効果

令和5年中の通報件数全体は、194,092件である。そのうち、Live119の対象となる携帯電話からの災害通報は98,595件で1日平均270件となる。令和5年中のLive119の依頼件数は93件で、その内、映像を受信できた件数は、63件となる。

※映像を受信できた件数が依頼件数から30件減少していることについては、電波状況の問題や映像受信中に救急車等が現場に着いたことにより必要でなくなった件数も含まれるためである。

（福岡市救急出動数100,107件、下松市救急出動数2,852件※各市令和5年度消防年報より）



4 主な質疑応答

Q 費用対効果の評価はどのように行われていますか？

A 指令センターで火災、交通事故、負傷者等の詳しい状況を早期に把握し、出動中の消防隊に伝えることで、現場到着後の活動を効率的に行うことができる。傷病者が心肺停止状態の救急事案では、指令センター員が送信された映像を確認しながら、通報者に心肺蘇生法を正しく伝えることができ、救命率の向上につながることを期待できる。

Q 低年齢者(特に10歳以下の通報者)や高齢者等が利用される際、どのように対応しているか。

A 通報者がLive119の操作について理解することができれば、年齢に関係なく、映像の配信をお願いしている。操作について理解が難しい場合は、依頼を断念し、救急隊、消防隊の到着を待つように指示し、電話を切っている。

Q 1件あたり、平均対応時間(通報者が重傷者に対応する時間)はどのくらいか。

A 具体的な統計はとっていないので平均対応時間は不明だが、Live119の依頼から概要説明URL送信し、切断するまでの時間としては、おおよそ2分から3分だと思われる。

Q 映像通報の事例の中で、特に印象に残っている事例について

A【救助事案】

釣りをしていた男性がテトラポットの間転落した事案で、映像通報システムを活用し、現場状況(落差約3m)を確認したため、救急隊のみでは引上げ困難と判断し、救助隊を出動させた。

保育園児が昼食のハンバーグを喉に詰まらせ呼吸困難となったところ、映像通報システムを活用し、背部叩打法を指導、異物除去に成功した。

【火災事案】

スーパーで発生した車両火災事案では、店舗2階の屋上駐車場に駐車していた普通乗用車が燃えていた。映像通報システムを活用し、駐車場に設置されている移動式粉末消火設備により初期消火を指導し、消防隊到着前に火災は鎮火状態となった。



福岡県福岡市

(福岡市民防災センター)

福岡県福岡市早良区百道浜 1-3-3

- 1 視察日時 令和6年11月15日(金)
午後3時30分～午後5時00分
- 2 視察事項 福岡市民防災センター施設見学について(VR防災体験・消火体験等の体験コースの受講)

3 視察の概要

(1) 福岡市民防災センター

●概要

福岡市民防災センターは、地震体験や煙の体験など、いろいろな災害の模擬体験を通して、もしもの時の防災に関する知識や対処法などを身につける施設であり、子どもから大人まで多くの方が利用することで、自主防災意識の啓発を図っている。

施設での体験等のほか、福岡市内の幼稚園・自治会やサークルなどのグループを対象に、地域へ直接訪問し、防災についての講習会(消防出前講習)や出産予定の方や1歳未満のお子さんの保護者等を対象に、心肺蘇生法やAEDの取扱要領、いざという時の対処方法の講習会(新米パパママ応急手当講習会)等を毎月開催している。

福岡市民防災センター来館者数

福岡市消防年報(令和5年版より抜粋)

令和5年度	来館者数					前年比	一日当たりの平均来館者数			
	市内	市外	県外	国外	総計		全日	平日	土曜日	日祝日
	39,962	12,942	8,414	3,721	65,039	12,871	214	230	195	182

福岡市民防災センター消防出前講習等実施状況

福岡市消防年報（令和5年版より抜粋）

	出前講習				センター内講習 (防火・防災・救急)	新米パパ ママ応急手当 講習
	防火・防災	救急	乳幼児救急	園児防災		
回数	181	183	121	41	105	31
受講者数	7,397	4,631	1,863	4,441	2,012	483
総計	662					
総受講者数	20,827					

4 体験コースの受講を通して

今回の福岡市民防災センターでの体験は、防災に関する知識と意識を大きく向上させる貴重な機会となった。特に、地震体験や火災煙体験等を通して、災害の恐ろしさを肌で感じ、日頃からの備えの重要性を痛感した。



視察を終えて

委員長 村田 丈生

■福岡市（福岡都市圏消防共同指令センター）

○視察事項【Live119 映像通報システムについて】

Live119 とは通報者に動画の送信を依頼し、消防隊員到着前に現場の映像を消防指令室で受信し、確認することができるシステムであり、119 番通報のみでは伝えることが難しい状況でも、映像により現場の状況が把握できるため、地理不案内者からの通報時、災害発生場所・出勤場所を早期に特定したり、災害状況を正確に把握したりすることができる。また、心肺蘇生などが必要な緊急性の高い救急事案では、通信指令員が通報者に対して、映像を確認しながら応急手当のアドバイスを行うことができるため、より効果的な救命措置につなげることができる。

福岡市では、音声での 119 番通報では詳細な災害現場等の状況を通報者から聴取することが難しい場合もあったこと、また他都市(東京消防庁、神戸市等)先行事例を調査し、有効性が確認できたため、導入する方針になったとのことであった。このシステムを導入することで、早い対応ができ、一人でも多くの尊い命が救えればと思うので、導入の検討をする必要があるのではないかと思う。

■福岡市（福岡市民防災センター）

○視察事項【福岡市民防災センター施設見学について】

VR による防災体験・煙からの避難体験・消火器体験・地震体験・水没車両などの水圧体験など、こうしたことを体験することで災者の怖さを再認識し、自らできる、自らの命を守る行動の必要性を強く感じられる施設である。

副委員長 中村 隆 征

■福岡市（福岡都市圏消防共同指令センター）

○視察事項【Live119 映像通報システムについて】

従来の「119 番」通報では災害現場の状況が通報者から、適格な状況が聴収する事が難しい場合があるので、映像も受信出来るシステム「Live119」

を導入したとの事である。令和5年度の福岡都市圏消防共同指令センターでの119番通報件数は全体で194,092件。その内「Live119」の対象になりうる案件は1日平均270件との事。その内映像を受信出来きたのは63件という電波通信が届かない場合も多く、まだまだ浸透率としては低い様であるが、間違いなく救命率向上には有効な手段であろうと思う

しかし通報者のスマホ操作が円滑でなかったり、撮影の際に2次災害に巻き込まれる危険性があったり、様々な問題もあろうと思う。その為には通報の手法が簡素化され、特に障害者や高齢者にも簡単に操作が出来る様、利便性を向上させていく事が必要であると思うし、そしてさらなる市民への周知を計りこのシステムが熟知されれば良いと思う。

そしていずれ、下松市においても是非導入を考えるべきだと思う

■福岡市（福岡市民防災センター）

○視察事項【福岡市民防災センター施設見学について】

火災をはじめ、あらゆる自然災害等々、自動車事故におけるトラブルで体験出来るその装置に驚かされたが、体験をしてあらためてその恐怖を実感した。

そして、それぞれの災害における適切な緊急対策を指導していただき、大変有意義な視察ができた。災害はいつ起きるかわからない。「備えあれば愛いなし。災害対策も政治の大きな課題の1つでもあろう。

委員 金 藤 哲 夫

■福岡市（福岡都市圏消防共同指令センター）

○視察事項【Live119映像通報システムについて】

「Live119」は先進的システムの導入によって、リアルタイムの映像によって通報者が救急車両の到着するまでに適切な救命措置を打つことができることから、人命の救出等に効果的である。本市においても導入することにより、さらなる市民の安全・安心の向上が期待出来ると感じた。

■福岡市（福岡市民防災センター）

○視察事項【福岡市民防災センター施設見学について】

防災センターでは、消火訓練、煙の中での避難の仕方、地震(震度7)を体験した。今回、縦2m横4mの揺れをと体験したが、同じ震度7であっても、

東日本大震災(マグニチュード 9.1)はその数倍以上の揺れがあったとのことであった。災害時には、地域住民との連携や協力が被害軽減に繋がることから、日常的なコミュニティの重要性を再認識した。

委員 近藤 康夫

■福岡市（福岡都市圏消防共同指令センター）

○視察事項【Live119 映像通報システムについて】

まず、驚いたのは、現在、カバーしている消防本部が 6 本部、16 市町、面積 956.09 km²、総人口約 254 万人、総世帯数約 125 万世帯という規模である。2029 年度には、これに「糸島市」が加入し、総人口は、約 264 万人、約 129 万世帯になるという。「LIVE 119」に関しては、救助事案として、釣りをしていた男性がテトラポットの間転落した事案で、現場状況(落差約 3m)を映像で確認した為、救急隊のみでの引上げ困難と判断し、「救助隊」も同時に出動させたとの事例が印象に残った。

■福岡市（福岡市民防災センター）

○視察事項【福岡市民防災センター施設見学について】

近年、自然災害が多発する中で、市民の防災意識を高めることの重要性を痛感した。災害はいつどこで起こるか分からず、日頃からの備えが重要であること、災害時には冷静な判断と行動が求められることなど、防災センターでの体験は知識だけでなく、体験を通してより深く防災について学ぶことができ、貴重なものであった。

委員 齊藤 マリ子

■福岡市（福岡都市圏消防共同指令センター）

○視察事項【Live119 映像通報システムについて】

指令センターが通報者のスマートフォンに救命の指示を送ることができることに驚いた。スマートフォンからの映像をみでの応急手当も対応がわかりやすい事がわかり、通報者も安心して救助活動ができ、これにより、救命率の向上になる。

今後、周南 3 市で消防通信指令業務が共同運用される際には、システムの導入を考えて、提案してみても、と思う。

福岡都市圏消防共同指令センターの導入費用は約 1,766,000 円、維持管理費用は約 1,030,000 円（年間）であるが、多くの人命救助ができるのであれば、素晴らしいシステムだと思う。

■福岡市（福岡市民防災センター）

○視察事項【福岡市民防災センター施設見学について】

一番驚いたのは震度 7 の地震の体験であった。もうひとつ驚いた事は煙の中を手探りで脱出した事であった。この体験で得た事は冷静な判断で何をすれば命を守る事ができるか考え、防災の意識を高める事ができた事である。今後に生かしていきたいと思う。

委員 永田 憲 男

■福岡市（福岡都市圏消防共同指令センター）

○視察事項【Live119 映像通報システムについて】

福岡都市圏消防共同指令センターは、令和 4 年 9 月から従来の音声のみの 119 番通報に加え、現場の映像をリアルタイムで消防指令センターに伝達できる LIVE119 システムを導入した。これにより、音声では伝えにくい状況を視覚的に伝え、より迅速かつ的確な救助活動につなげることが可能となった。

令和 5 年中の LIVE119 の利用件数は 93 件で、その内、映像受信した件数は 63 件であった。件数は大きなものではないが、生命に関わる事例であるため、単純に件数で判断するものではないと考える。特に、テトラポッドに落下した釣りをしていた男性の事例など、印象に残った。

■福岡市（福岡市民防災センター）

○視察事項【福岡市民防災センター施設見学について】

福岡市防災センターを視察し、実際の災害を疑似体験することで、日頃から防災意識を持ち、いざという時に冷静に対応できることの大切さを実感した。この学びを議員活動としても活かしていきたい。

■おわりに

福岡都市圏消防共同指令センター様、福岡市消防局様、この度は、視察を受け入れてくださり、また丁寧なご説明もいただきありがとうございました。頂いた知識を、下松市の発展に活かせるよう、今後も研究を重ねて参りたいと思います。この度はありがとうございました。